

## インタビュー ロンザ/カプセル・ジャパン

代表取締役社長 小林 亨氏

ロンザ株式会社(東京都中央区、〒103-6264-0600)は、世界100超の拠点・オフィスと従業員約1万5,500人を擁するロンザグループの日本法人。2017年にロンザグループとなったカプセル・ジャパン株式会社(神奈川県相模原市)は、医薬品・サプリメント用のハードカプセルで世界100カ国4,000社超の供給実績を持つカプセルグループの日本法人。3月に両社の代表取締役社長に就任した小林亨氏に現状と今後の戦略を聞いた。

今年の全体売上は注力素材の選択と集中とともに、ハードカプセルを活用した相乗効果も寄与し、これまで対前年比2ケタ増を達成している。

健康食品原料の供給では、20年近くの国内販売実績を持つ主力素材・L-カルニチン『カルニチュア®』は、“運動後の筋肉の違和感を和らげる”を想定した機能性表示食品の届出を進めている。また、液体充填ハードカプセル技術を活用した『カルニチュアインリキャプス』を用いて、日本人被験者による臨床試験で運動前に摂取することで脂肪が効果的に燃焼されることや、摂取後30分後から燃焼が始まり、即効性が高まることを確認した(論文掲載済み)。カルニチンの新たな利用法を進めていくほか、ペット向けや畜産向けの提案も本格化する。関節サポート素材の非変性Ⅱ型コラーゲン『UC-Ⅱ®』は、20品目を超える機能性表示食品の受理実績があり、40mgの少量で効果が期待できる高付加価値素材としてさらなる販売拡大を目指す。免疫サポートを訴求するセイヨウカラマツ由来機能性多糖『レ

ジストエイド™』は、自然免疫、獲得免疫の両方が高められる素材として需要が増えており、今後の広がりに期待している。

一方、ハードカプセルだが、国内のサプリメント剤形に占める割合は5%程度と海外の約半分で、まだまだ高いポテンシャルがある。なかでもLicaps®は、HPMC(ヒドロキシプロピルセルロース)と独自のシーリング技術により、液漏れの心配がなく、油系だけでなく、水系やO/Wエマルジョン(水中油型乳化液)の充填も可能。また、昨秋、あらかじめ充填された小さなカプセルを大きな液体充填カプセルに挿入した“カプセルインカプセル”デリバリーシステム『DUOCAP™』を新たに提案した。段階的な崩壊による継続的作用効果や配合禁忌の防止を実現した単一の経口投与デリバリーシステムとして、すでに国内初の採用製品も流通しており、今後、多用途での可能性と広範な剤形および設計のオプションが期待できる。このほか植物由来カプセル『Plantcaps®』などの引き合いも多く、耐酸性のHPMCハードカプセル『DRcaps®』は乳酸菌用途で好調だ。

今後、高齢者社会のニーズに応じた選択と集中で、独自の機能性素材とカプセル技術を融合させ、体内に必要成分を届ける新たなアプリケーションを追求していく。

